

電波有効利用成長戦略懇談会
令和元年度フォローアップ会合（第2回）資料

滑走路異物検知システムの海外展開について (リニアセルレーダーシステム)

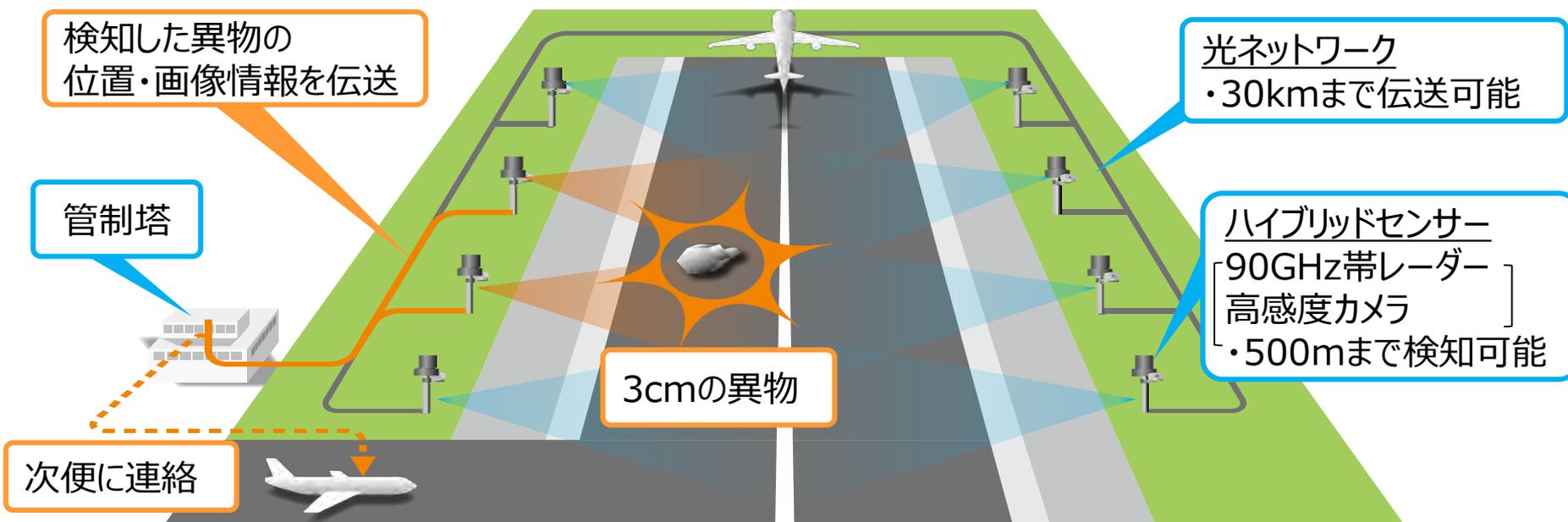
令和元年10月8日
株式会社 日立国際電気

1.滑走路異物検知システムの概要

90GHz帯ミリ波レーダーを活用して滑走路面に落下している金属片等の異物を検知するシステム

◆導入メリット

- ✓ 墜落事故の要因となる異物の早期検知（事故回避）
- ✓ 定時運航確保（経済効果）
- ✓ 滑走路閉鎖時の上空待機便による燃料浪費の削減（環境保全）



最大の特徴：3,000mの範囲にある異物を10秒で検知

世界の市場規模1,100億円

2. 海外展開の成果（マレーシアとの協業）

2017年：Japan Wireless EXPO(タイ)

EXPO参加国のうち日本の滑走路面異物検知システムに興味のある国向けにワークショップを開催
→マレーシアが強い興味を示す

Hitachi Kokusai Electric **ENRI NICT** **HITACHI**
Inspire the Next

Executive Workshop
The FOD Detection System and RoF Technology

to be held on Wednesday 3 May 2017
at Meeting Room 8 & 9,
Hotel Pullman Bangkok Grande Sukhumvit

2018年：調印式（マレーシア）

マレーシア空港との滑走路面異物検知システムの実証試験と技術協力に関する覚書を締結
民間主導



2019年：起工式（クアラルンプール空港）

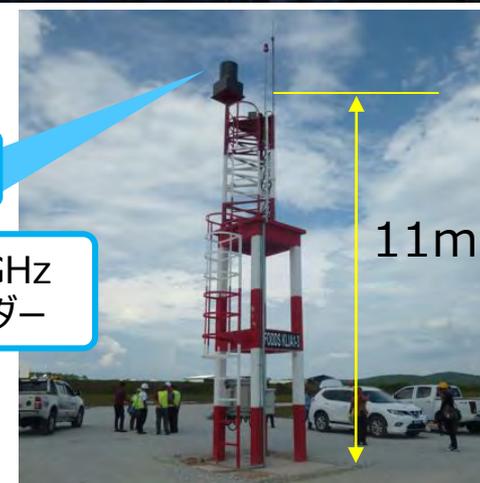
マレーシア空港で滑走路面異物検知システムの実証試験運用を開始
民間主導



ハイブリッドセンサー

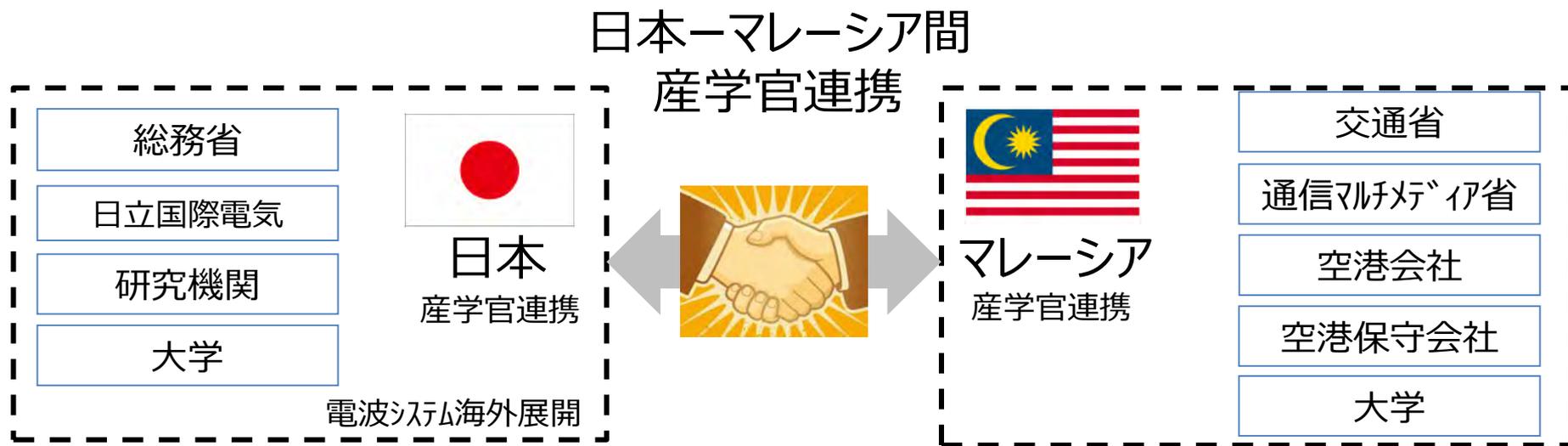
高感度
カメラ

90GHz
レーダー



3. 海外展開の取り組みと国家間産学官連携

2017年、電波システム海外展開推進会議（主宰：総務大臣）
において、電波システムのグローバル展開に関する戦略的な取組について
検討を実施 → 国家間産学官連携の構築

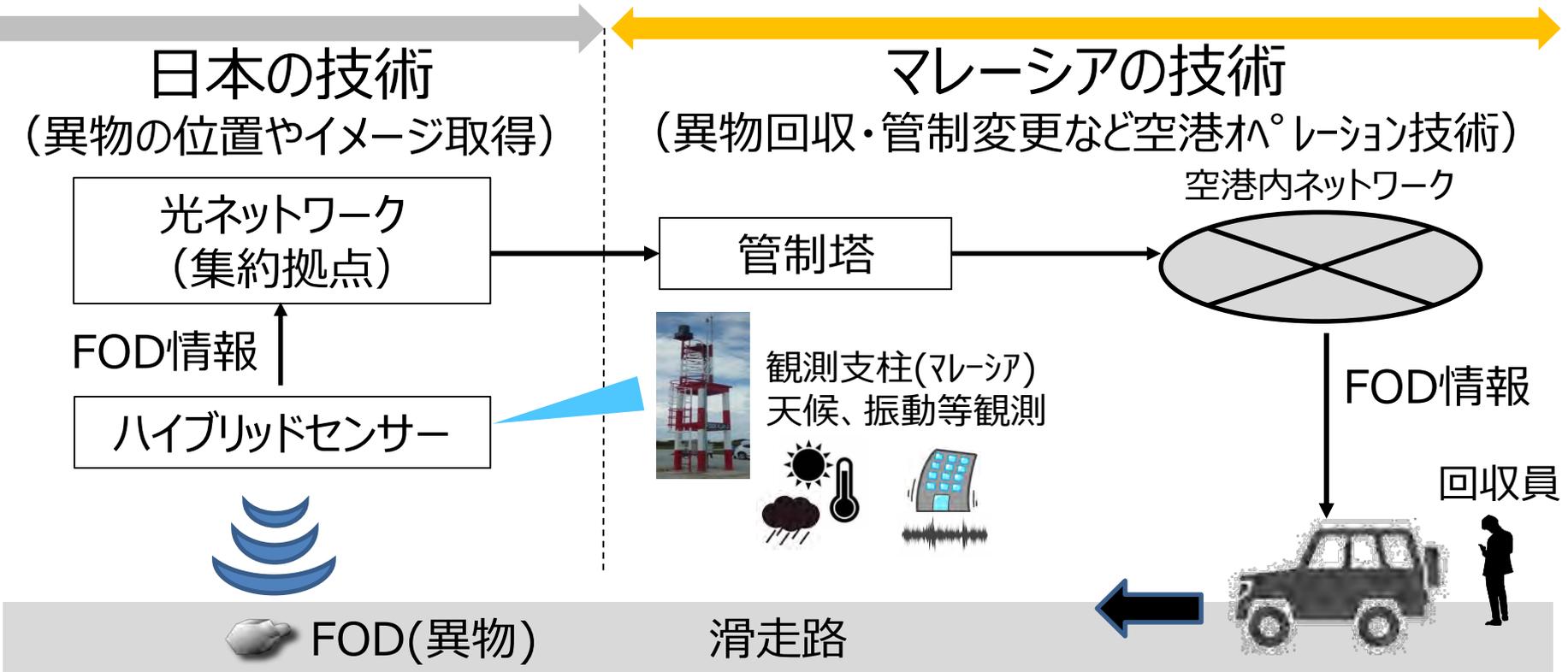


◆マレーシア側のメリット（目標：先進国を目指す）

- ・日本の最先端技術をインフラに取り込み一緒にシステム構築したい
- 技術の裾野を広げるための長期的な人材育成
- ITU-R、ICAO等の国際会議における地位向上のための好機

4. マレーシア協業における分担スキーム

◆構築した実証実験システムの技術分担



◆日本側のメリット (目標: 政府支援による最先端技術の海外事業化)

- ・マレーシア側の技術的意向を取り入れ一緒にシステム構築する
- 相手国の真のニーズに基づくシステム導入の実現
- 相手側技術者のスキル向上によるシステムの安定運用の実現

5. 展開がスムーズに進んでいる理由

両国民間企業連携が中心となり事業を立ち上げ、
日本政府(総務省等)がその活動の後ろ盾となる

■ マレーシアでの実証実験システムの選定入札
日本政府（総務省等）からの広範囲な支援なら
びに、システムの優位性による差別化提案との総合力
で、他国からの様々な攻勢を制した。



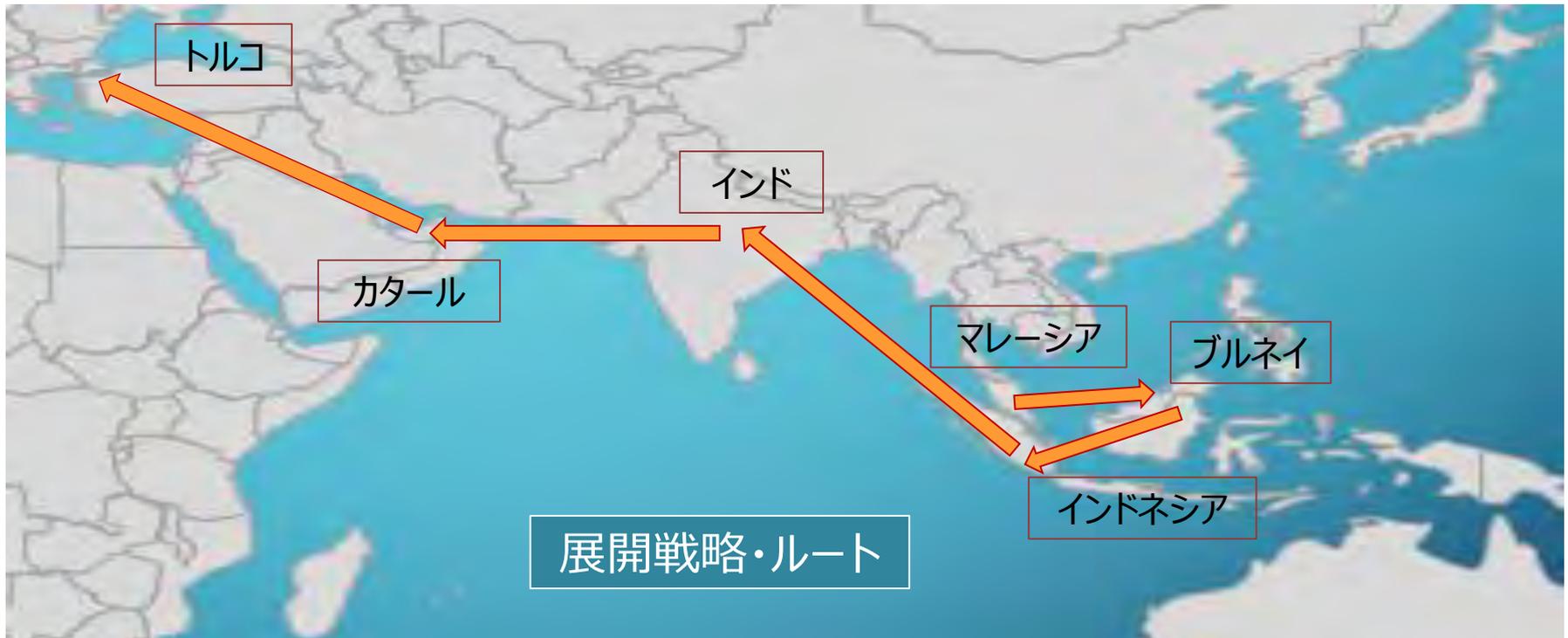
- 民間企業のみであれば敗北していた可能性がある。
- 当社の立ち位置が確保されたため、マレーシア代表団より
「アジア太平洋航空局長会議」に出展要請され、優位化。

6. 今後の展開について

- ・マレーシア側が希望する導入先（マレーシア国内）に展開する。
- ・マレーシアをショーケースとして、東南アジア・南アジアを主軸に展開を継続する。

対象国：

ブルネイダルサラーム国、インドネシア共和国、インド共和国、カタール国、トルコ共和国



Hitachi Kokusai Electric

HITACHI
Inspire the Next



EOF



 **LINEAR CELL RADAR SYSTEM[®]**

日立国際電気

注釈)  **LINEAR CELL RADAR SYSTEM** は日立国際電気の登録商標または商標です。